

新規事業採択時評価結果（平成23年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：三浦 真紀

事業の概要

事業名	那覇空港自動車道 一般国道506号 小禄道路	事業区分	一般国道	事業主体	内閣府 沖縄総合事務局
起終点	自：沖縄県那覇市鏡水 至：沖縄県豊見城市名嘉地	延長	5.7 km		
<p>事業概要</p> <p>那覇空港自動車道は、沖縄県那覇市から中頭郡西原町に至る延長約20 kmの一般国道の自動車専用道路であり、これまでに約12 kmが供用済みである。</p> <p>小禄道路は、那覇空港自動車道の一部を構成する道路で、那覇市鏡水から豊見城市名嘉地に至る延長5.7 kmの自動車専用道路である。</p> <p>事業の目的、必要性</p> <p>小禄道路は、国道331号小禄地区の交通容量の確保、那覇中心部における通過交通の削減、那覇都市圏の渋滞緩和、沖縄本島中北部から那覇空港への定時制・速達性の確保に寄与するものである。</p>					
全体事業費	約620億円	計画交通量	27,300台/日		
<p>事業概要図</p>					

関係する地方公共団体等の意見

那覇空港等交通拠点や主要拠点へのアクセス性を向上し、産業振興や人、物の交流の活性化、地域活性化を図るために小禄道路の整備促進が必要であるため、予算化に同意いたします。

学識経験者等の第三者委員会の意見

新規事業化については、妥当である。

事業採択の前提条件

費用対便益：便益が費用を上回っている
 手続きの完了：都市計画決定済み（H21.5.1）であり、円滑な事業執行の状況が整っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.7	総費用：430億円 （事業費：408億円 維持管理費：22億円）	総便益：748億円 （走行時間短縮便益：589億円 走行費用減少便益：91億円 交通事故減少便益：68億円）	基準年 平成22年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.2（交通量 -10%）	B/C=1.9（交通量 +10%）	
		事業費変動	B/C=1.6（事業費 +10%）	B/C=1.9（事業費 -10%）	
	事業期間変動	B/C=1.7（事業期間 +20%）	B/C=1.8（事業期間 -20%）		
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠	
		渋滞対策	◎	小禄道路の並行区間の渋滞緩和が見込まれる。 【渋滞損失時間の改善】 小禄道路の整備により、現道である国道331号及び那覇都市圏の幹線道路の渋滞損失時間の削減効果が見込まれる。 【1kmあたり（台kmあたり）渋滞損失時間】約18.1万人時/年km、約5.3万人時/年万台km（現況） （沖縄県平均：約4.1万人時/年km（約4.4倍） 全国平均：約2.0万人時/年km（約9.0倍））	
		事故対策	○	交通を分散させることにより事故件数の減少を図る事業である。 【死傷事故率】約92.7件/億台キロ（現況）（死傷事故率比（県内平均比）1.2（現況）） （沖縄県平均：約78.8件/億台キロ（約1.2倍） 全国平均：約102.6件/億台キロ（約0.9倍））	
	社会全体への影響	歩行空間	—		
		住民生活	○	交通混雑の緩和により、地域住民の円滑な移動が確保できる。	
		地域経済	○	那覇空港と高速ネットワークが接続し、定時性、速達性が向上 沖縄自動車道（西原JCT）～那覇空港まで高規格幹線道路が接続することとなり、所要時間の短縮、定時性の確保につながる。	
	災害	—			
	環境	○	並行区間の沿道環境の改善：CO ₂ 、SPMの削減が見込まれる。		
	地域社会	○	救急医療施設へのアクセスが向上するとともに、患者への負担軽減が計られる。 那覇空港までのアクセスが向上し、物流の効率化につながる。		
事業実施環境		○	・平成21年5月1日付け、都市計画決定済み。 ・那覇空港自動車道（豊見城東道路）、沖縄西海岸道路（那覇西道路、豊見城道路）と一体的な整備が必要。		

対応方針

費用便益比が1.7と、便益が費用を上回っているとともに、都市計画手続が完了し、事業採択の前提条件が確認できる。
 また、当該事業箇所の現況渋滞損失時間が高いため、事業実施による改善効果は大きく、渋滞対策の必要性・効果は高いと判断できる。
 以上より、本事業の新規事業化については妥当である。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。